

組織評価（令和2年度実績）

評価結果

令和3年10月

国立大学法人徳島大学

組織評価の概要

1. 目的

組織評価は、徳島大学の教育研究組織の活動状況、成果、機能を点検・評価し、その評価結果を組織の機能向上、改善・見直し等に活用することを目的として実施しています。

2. 点検・評価の方法

(1) 対象期間

令和2年度実績

(2) 対象組織

- (グループ1) 学部・研究科・教育部
- (グループ2) 研究部及び研究所
- (グループ3) 共同教育研究施設等
- (グループ4) 病院

(3) 評価方法等

評価業務の徹底的な効率化を図るとともに、国立大学の新たな評価制度の観点も踏まえ、目標の達成状況や成果に基づく評価方法としました。

グループ1及び2については、評価項目の達成状況等をポイント化し、各評価項目の合計ポイントを各組織の最終評価ポイントとしています。

なお、グループ1の共通項目については、新型コロナウイルスの影響を鑑み、評価に反映していません。

また、グループ3及びグループ4については、各組織から提出のあった「組織運営等状況報告書」に基づき、評価者による書面評価（5段階評価）を実施しました。

3. 評価結果

組織評価の結果は、組織の機能向上、改善、見直し等に活用するとともに、大学ホームページ等に掲載して公表することとしています。

4. インセンティブ経費

評価結果に基づき、インセンティブ経費を配分しています。

該当する組織においては、教育、研究、社会貢献分野等で成果・効果の現れるような有意義な使途に充当することとしています。

目 次

1. グループ1（学部・研究科・教育部）	1
総合科学部・創成科学研究科（地域創成専攻・臨床心理学専攻）	
総合科学教育部、医学部・医科学教育部・栄養生命科学教育部・	
保健科学教育部、歯学部・口腔科学教育部、薬学部・薬科学教育部、	
理工学部・創成科学研究科（理工学専攻）・先端技術科学教育部、	
生物資源産業学部・創成科学研究科（生物資源学専攻）	
2. グループ2（研究部及び研究所）	12
社会産業理工学研究部、医歯薬学研究部、先端酵素学研究所、	
ポストLEDフォトニクス研究所	
3. グループ3（共同教育研究施設等）	22
教養教育院、人と地域共創センター、情報センター、放射線総合セ	
ンター、高等教育研究センター、環境防災研究センター、研究支援	
・産官学連携センター、AWAサポートセンター、先端研究推進セ	
ンター、デザイン型AI教育研究センター、産業院、バイオイノベ	
ーション研究所、埋蔵文化財調査室、附属図書館、キャンパスライ	
フ健康支援センター	
4. グループ4（病院）	53

【参考資料】

- ・徳島大学組織評価実施要項

1 グループ1（学部・研究科・教育部）

【最終評価結果】

各部局の強み・特色に応じて当該部局が選択した「選択項目」の達成状況等をそれぞれ点数化し、合計したものから、「達成必須項目」の未達成分を減点したものを最終評価結果とする。（執行部が指定する「共通項目」については、新型コロナウイルスの影響を鑑み、令和3年度実施の組織評価においては、評点に反映しない）
評点の上位2部局にはインセンティブ経費を配分する。

	総合科学部 総合科学教育部 創成科学研究科 (地域創成専攻) (臨床心理学専攻)	医学部 医科学教育部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	歯学部 口腔科学教育部	薬学部 薬科学教育部	理工学部 先端技術科学教育部 創成科学研究科 (理工学専攻)	生物資源産業学部 創成科学研究科 (生物資源学専攻)
順位	4 (6)	4 (4)	1 (3)	2 (1)	6 (5)	2 (2)
最終評点	6	6	8	7	4	7
共通項目	—	—	—	—	—	—
選択項目	9	7	8	7	5	10
達成必須項目	-3	-1	0	0	-1	-3

【評価項目別の評価結果】

評価項目ごとに評価基準及び評点を定め、各部局の実績を点数化する。

(1) 共通項目

令和3年度実施の組織評価においては参考値とし、評点は結果に反映しない。

① アクティブ・ラーニング実施率

令和3年3月31日現在

	総合科学部	医学部	歯学部	薬学部	理工学部	生物資源産業学部
目標値	85%	85%	85%	85%	85%	85%
実績値	85.6%	82.8%	77.9%	81.3%	73.6%	86.2%
達成率	101%	97%	92%	96%	87%	101%

②-A インターンシップ参加学生数（常三島地区の学部）

	総合科学部 総合科学教育部 創成科学研究科 (地域創成専攻) (臨床心理学専攻)	医学部 医科学教育部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	歯学部 口腔科学教育部	薬学部 薬科学教育部	理工学部 先端技術科学教育部 創成科学研究科 (理工学専攻)	生物資源産業学部 創成科学研究科 (生物資源学専攻)
基準値	88人				436人	31人
実績値	29人				75人	3人
達成率	33%				17%	10%

②-B 国家試験合格率（蔵本地区の学部）

	総合科学部	医学部 (医師)	歯学部 (歯科医師)	薬学部 (薬剤師)	理工学部	生物資源産業学部
基準値		92.5%	75.3%	81.3%		
実績値		93.8%	67.3%	77.3%		
達成率		101%	89%	95%		

③ 外国語で実施している授業科目（英語による授業数／専攻開設科目数）

	総合科学教育部 創成科学研究科 (地域創成専攻) (臨床心理学専攻)	医科学教育部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	口腔科学教育部	薬科学教育部	先端技術科学教育部 創成科学研究科 (理工学専攻)	創成科学研究科 (生物資源学専攻)
目標値	10%	10%	10%	10%	10%	10%
実績値	3.3%	17.4%	35.3%	50.0%	1.7%	1.6%
達成率	33%	174%	353%	500%	17%	16%

④ 日本人学生の留学生数

令和2年11月1日現在

	総合科学部 総合科学教育部 創成科学研究科 (地域創成専攻) (臨床心理学専攻)	医学部 医科学教育部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	歯学部 口腔科学教育部	薬学部 薬科学教育部	理工学部 先端技術科学教育部 創成科学研究科 (理工学専攻)	生物資源産業学部 創成科学研究科 (生物資源学専攻)
目標値	86人	23人	10人	4人	108人	10人
実績値	45人	10人	1人	2人	15人	7人
達成率	52%	43%	10%	50%	14%	70%

⑤ 外国人留学生数（研究生等含む）

令和2年11月1日現在

	総合科学部 総合科学教育部 創成科学研究科 (地域創成専攻) (臨床心理学専攻)	医学部 医科学教育部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	歯学部 口腔科学教育部	薬学部 薬科学教育部	理工学部 先端技術科学教育部 創成科学研究科 (理工学専攻)	生物資源産業学部 創成科学研究科 (生物資源学専攻)
目標値	65人	36人	28人	14人	142人	7人
実績値	32人	30人	22人	9人	87人	9人
達成率	49%	83%	79%	64%	61%	129%

(2) 選択項目

① 県内就職率（学部）

	総合科学部	医学部	歯学部	薬学部	理工学部	生物資源産業学部
基準値	35.6%	35.3%	49.1%			28.8%
実績値	41.7%	30.9%	40.0%			43.4%
H29実績比	117%	88%	81%			151%
評点	4	3	3			5

② 教員のFD参加率

	総合科学部	医学部	歯学部	薬学部	理工学部	生物資源産業学部
基準値		89.2%	100.0%	78.1%		95.2%
実績値		89.2%	100.0%	100.0%		100.0%
H29実績比		100%	100%	128%		105%
評点*		4	5	5		5

*実績値が100%に達している場合には、評点5をつける。

③ 学生の学会等発表数

	総合科学部 総合科学教育部 創成科学研究科 (地域創成専攻) (臨床心理学専攻)	医学部 医学教育部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	歯学部 口腔科学教育部	薬学部 薬科学教育部	理工学部 先端技術科学教育部 創成科学研究科 (理工学専攻)	生物資源産業学部 創成科学研究科 (生物資源学専攻)
基準値					908	
実績値					783	
H29実績比					86%	
評点					3	

④ 学生の獲得した賞数

	総合科学部 総合科学教育部 創成科学研究科 (地域創成専攻) (臨床心理学専攻)	医学部 医学教育部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	歯学部 口腔科学教育部	薬学部 薬科学教育部	理工学部 先端技術科学教育部 創成科学研究科 (理工学専攻)	生物資源産業学部 創成科学研究科 (生物資源学専攻)
基準値	2件			21件	110件	
実績値	5件			13件	47件	
H29実績比	250%			62%	43%	
評点	5			2	2	

【評価基準（選択項目共通）】

評価基準	評点
H29実績比 130%以上	5
H29実績比 100%以上130%未満	4
H29実績比 80%以上 100%未満	3
H29実績比 80%未満	2

選択項目評点合計

項目	総合科学部	医学部	歯学部	薬学部	理工学部	生物資源産業学部
① 県内就職率	4	3	3			5
② 教員のFD参加率		4	5	5		5
③ 学生の学会等発表数					3	
④ 学生の獲得した賞数	5			2	2	
評点	9	7	8	7	5	10

(3) 達成必須項目

① 学生定員充足率 (在籍学生数／収容定員)

令和2年5月1日現在

区分	総合科学部	医学部	歯学部	薬学部	理工学部	生物資源産業学部
	総合科学教育部 創成科学研究科 (地域創成専攻) (臨床心理学専攻)	医科学教育部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	口腔科学教育部	薬科学教育部	先端技術科学教育部 創成科学研究科 (理工学専攻)	創成科学研究科 (生物資源学専攻)
基準値	90%	90%	90%	90%	90%	90%
実績値	112.9%	102.8%	97.1%	106.3%	104.4%	101.7%
	86.2%	110.4%	93.2%	107.8%	99.6%	110.3%
評点	0	0	0	0	0	0
	-5	0	0	0	0	0
評点平均	-2.5	0	0	0	0	0

【評価基準①】

評価基準	評点
90%を満たしている	0
90%を満たしていない	-5

② 研究倫理教育受講率 (学生) [※]

令和3年3月31日現在

区分	総合科学部	医学部	歯学部	薬学部	理工学部	生物資源産業学部
	総合科学教育部	医科学教育部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	口腔科学教育部	薬科学教育部	先端技術科学教育部	
基準値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
実績値	96.0%	99.4%	100.0%	100.0%	96.5%	82.2%
	100.0%	91.6%	100.0%	100.0%	98.2%	—
評点	-1	-1	0	0	-1	-3
	0	-1	0	0	-1	—
評点平均	-0.5	-1	0	0	-1	-3

※受講対象者は、平成29年度における受講対象年次以降の入学者で令和2年度中に卒業・修了した者。

【評価基準②】

評点	評点
100%を満たしている	0
90%以上100%未満	-1
80%以上90%未満	-3
80%未満	-5

③ 実質志願倍率（学部）

令和2年度入試

	総合科学部	医学部	歯学部	薬学部	理工学部	生物資源産業学部
目標値	2倍	2倍	2倍	2倍	2倍	2倍
実績値	2.8倍	2.2倍	3.2倍	3.7倍	2.2倍	2.2倍
達成率	140%	110%	160%	185%	110%	110%
評点	0	0	0	0	0	0

【評価基準（③）】

評点 1	評点
目標達成率 100%以上	0
目標達成率 95%以上 100%未満	-1
目標達成率 90%以上 95%未満	-3
目標達成率 90%未満	-5

達成必須項目評点合計

項目	総合科学部	医学部	歯学部	薬学部	理工学部	生物資源産業学部
① 学生定員充足率	-2.5	0	0	0	0	0
② 研究倫理教育受講率	-0.5	-1	0	0	-1	-3
③ 実質志願倍率	0	0	0	0	0	0
評点	-3	-1	0	0	-1	-3

今年度の基準・目標
目標達成項目
目標未達項目
評価対象外

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
共通項目	アクティビティ実施率	学部	85%以上	82.4	72.0	71.2	81.7	85.6
	インターンシップ参加学生数	学部 研究科 教育部	88人	77	144	64	73	29
	外国語で実施している授業科目割合	研究科 教育部	10%以上	7.0	6.3	6.0	6.1	3.3
	日本人学生の留学生数	学部 研究科 教育部	86人	61	61	89	84	45
	外国人留学生数	学部 研究科 教育部	65人	35	46	47	54	32
選択項目	県内就職率	学部	35.6%以上	35.6	35.6	34.2	37.6	41.7
	教員のFD参加率	研究部	対象外	100	84.9	93.9	89.1	100
	学生の学会等発表数	学部 研究科 教育部	対象外	44	149	459	80	19
	学生の獲得した賞数	学部 研究科 教育部	2	2	2	7	7	5
達成必須項目		学部		109.1	110.2	112.5	114.3	112.9
	学生定員充足率 [収容数/収容定員]	研究科	90%以上	—	—	—	—	75.0
		教育部		104.7	96.2	100	86.8	91.5
	研究倫理教育受講率 [学生]	学部		—	45.0	51.2	12.6	96.0
		教育部	100%	—	54.5	81.2	94.5	100
	実質志願倍率 [受験者数/合格者数]	学部	2倍	1.9	2.3	2.4	2.5	2.8

今年度の基準・目標
目標達成項目
目標未達項目
評価対象外

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
共通項目	アクティビティ実施率	学部	85%以上	76.4	80.7	82.1	82.9	82.8
	国家試験(医師)合格率	学部	92.5% 国立大平均以上※	91.8	88.1	91.7	92.1	93.8
	外国語で実施している授業科目割合	教育部	10%以上	18.3	17.9	17.8	16.9	17.4
	日本人学生の留学生数	学部 教育部	23人	26	24	28	22	10
	外国人留学生数	学部 教育部	36人	35	27	24	30	30
選択項目	県内就職率	学部	35.3%以上	37.2	35.3	36.5	33.0	30.9
	教員のFD参加率	研究部	89.2%以上	86.3	89.2	80.0	81.8	89.2
	学生の学会等発表数	学部 教育部	対象外	186	450	720	648	422
	学生の獲得した賞数	学部 教育部	対象外	40	6	22	17	12
達成必須項目	学生定員充足率 [収容数/収容定員]	学部		102.6	102.4	103.0	102.0	102.8
		医科学教育部	90%以上	122.8	118.3	114.3	107.1	104.0
		栄養生命科学教育部		143.7	133.8	131.0	128.2	115.5
		保健科学教育部		123.2	118.8	118.8	120.3	126.1
	研究倫理教育受講率 [学生]	学部		—	94.5	98.9	63.7	99.4
		医科学教育部	100%	—	49.4	48.4	52.9	69.6
		栄養生命科学教育部		—	81.7	68.9	87.1	100
		保健科学教育部		—	65.9	85.5	82.1	100
	実質志願倍率 [受験者数/合格者数]	学部	2倍	2.6	2.9	2.3	2.2	2.2

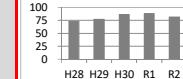
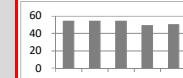
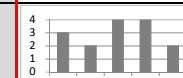
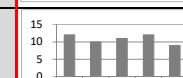
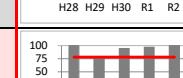
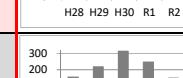
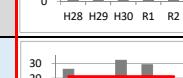
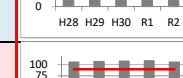
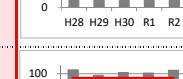
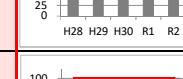
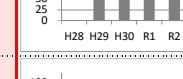
※ 厚生労働省がホームページで公表している学校別合格者状況による

今年度の基準・目標
目標達成項目
目標未達項目
評価対象外

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
共通項目	アクティビティ実施率	学部	85%以上	73.3	73.6	77.1	76.6	77.9
	国家試験(歯科医師)合格率	学部	75.3% 国立大平均以上※	66.1	76.9	66.7	69.2	67.3
	外国語で実施している授業科目割合	教育部	10%以上	38.2	38.2	38.0	34.9	35.3
	日本人学生の留学生数	学部 教育部	10人	11	14	9	10	1
	外国人留学生数	学部 教育部	28人	14	13	19	23	22
選択項目	県内就職率	学部	49.1%以上	37.8	49.1	54.5	46.3	40.0
	教員のFD参加率	研究部	100%	100	100	97.7	92.0	100
	学生の学会等発表数	学部 教育部	対象外	81	91	138	135	66
	学生の獲得した賞数	学部 教育部	対象外	15	9	13	10	2
達成必須項目	学生定員充足率 [収容数／収容定員]	学部 教育部	90%以上	104.1 101.2	100.3 96.6	98.7 102.3	98.4 97.7	97.1 93.2
	研究倫理教育受講率 [学生]	学部 教育部	100%	— —	97.2 98.8	84.8 100	100 91.4	100 100
	実質志願倍率 [受験者数／合格者数]	学部	2倍	3.3	3.9	3.8	3.2	3.2

※ 厚生労働省がホームページで公表している学校別合格者状況による

今年度の基準・目標
目標達成項目
目標未達項目
評価対象外

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移	
			H28	H29	H30	R1	R2		
共通項目	アクティビティ実施率	学部	85%以上	73.1	76.7	85.9	87.7	81.3	
	国家試験(薬剤師)合格率	学部	81.3% 国立大平均以上※	87.9	83.9	87.9	84.6	77.3	
	外国語で実施している授業科目割合	教育部	10%以上	54.3	54.3	54.3	49.0	50.0	
	日本人学生の留学生数	学部 教育部	4人	3	2	4	4	2	
	外国人留学生数	学部 教育部	14人	12	10	11	12	9	
選択項目	県内就職率	学部	対象外	17.9	10.5	14.0	9.3	2.4	
	教員のFD参加率	研究部	78.1%以上	100	78.1	94.7	97.3	100	
	学生の学会等発表数	学部 教育部	対象外	156	218	314	247	149	
	学生の獲得した賞数	学部 教育部	21	26	21	32	29	13	
達成必須項目	学生定員充足率 [収容数／収容定員]	学部	90%以上	106.5	107.8	108.5	109.5	106.3	
		教育部		108.6	96.6	102.6	101.7	107.8	
	研究倫理教育受講率 [学生]	学部	100%	—	95.1	97.1	100	100	
		教育部		—	97.8	84.8	97.2	100	
	実質志願倍率 [受験者数／合格者数]	学部	2倍	3.7	3.7	3.5	3.0	3.7	

※ 厚生労働省がホームページで公表している学校別合格者状況による

今年度の基準・目標
目標達成項目
目標未達項目
評価対象外

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
共通項目	アクティビティ実施率	学部	85%以上	84.2	69.5	72.0	71.5	73.6
	インターンシップ参加学生数	学部 研究科 教育部	436人	310	430	300	363	75
	外国語で実施している授業科目割合	研究科 教育部	10%以上	8.1	6.2	4.4	5.2	1.7
	日本人学生の留学生数	学部 研究科 教育部	108人	39	59	63	106	15
	外国人留学生数	学部 研究科 教育部	142人	115	137	160	118	87
選択項目	県内就職率	学部	対象外	27.1	23.7	18.4	24.3	20.5
	教員のFD参加率	研究部	対象外	82.6	90.2	89.3	96.5	94.6
	学生の学会等発表数	学部 研究科 教育部	908	637	946	1,049	1,131	783
	学生の獲得した賞数	学部 研究科 教育部	110	94	115	103	67	47
達成必須項目		学部		101.7	102.3	100.5	99.3	104.4
	学生定員充足率 [収容数/収容定員]	研究科	90%以上	—	—	—	—	101.9
		教育部		105.1	106.9	110.1	101.9	98.0
		学部		—	91.5	87.2	92.3	96.5
	研究倫理教育受講率 [学生]	教育部	100%	—	93.7	91.4	90.4	98.2
	実質志願倍率 [受験者数/合格者数]	学部	2倍	1.7	2.6	2.0	1.9	2.2

今年度の基準・目標
目標達成項目
目標未達項目
評価対象外

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
共通項目	アクティブラーニング実施率	学部	85%以上	64.3	73.9	78.6	86.1	86.2
	インターンシップ参加学生数	学部 研究科	31人	0	3	31	26	3
	外国語で実施している授業科目割合	研究科	10%以上	—	—	—	—	1.6
	日本人学生の留学生数	学部 研究科	10人	7	9	13	10	7
	外国人留学生数	学部 研究科	7人	0	2	3	6	9
選択項目	県内就職率	学部	28.8%以上	—	—	—	37.2	43.4
	教員のFD参加率	研究部	95.2%以上	100	95.2	92.9	93.0	100
	学生の学会等発表数	学部 研究科	対象外	0	0	0	13	27
	学生の獲得した賞数	学部 研究科	対象外	2	0	1	1	3
達成必須項目	学生定員充足率 [収容数／収容定員]	学部	90%以上	101.0	100.0	100.3	100.5	101.7
		研究科		—	—	—	—	110.3
	研究倫理教育受講率 [学生]	学部	100%	—	—	99.0	90.8	82.2
	実質志願倍率 [受験者数／合格者数]	学部	2倍	2.0	2.4	1.8	2.2	2.2

2 グループ2（研究部及び研究所）

【最終評価結果】

執行部が指定する「共通項目」の達成状況等、また、各部局の強み・特色に応じて当該部局が選択した「選択項目」の達成状況等を、それぞれ点数化し、合計したものから、「達成必須項目」の未達成分を減点したものを最終評価結果とする。

評点の上位3部局にはインセンティブ経費を配分する。

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォトニ クス研究所
順位	2	3	1	4
()内は 前年度順位	(1)	(3)	(4)	(2)
最終評点	31	30	42	29
共通項目	26	24	34	24
選択項目	6	6	8	5
共通・選 択合計	32	30	42	29
達成必須 項目	-1	0	0	0

【評価項目別の評価結果】

評価項目ごとに評価基準及び評点を定め、各部局の実績を点数化する。

(1) 共通項目

① 論文数 (Scopus)

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォトニ クス研究所
基準値	430件	674件	80件	194件
実績値	442件	646件	120件	106件
H29実績比	103%	96%	150%	55%
評点	6	4	8	2

② 國際共著論文数 (Scopus)

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォトニ クス研究所
基準値	132件	107件	20件	36件
実績値	127件	127件	29件	13件
H29実績比	96%	119%	145%	36%
評点	4	6	8	2

③ SNIP (Scopus) ※補正を加えた論文の被引用度

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォトニ クス研究所
基準値	276.0	651.0	128.1	124.2
実績値	421.9	817.3	183.7	105.8
H29実績比	153%	126%	143%	85%
評点	8	6	8	4

【評価基準 (①~③共通)】

評価基準	評点
H29実績比 130%以上	8
H29実績比 100%以上130%未満	6
H29実績比 70%以上 100%未満	4
H29実績比 70%未満	2

④ 外部資金獲得金額 ※科研費、受託・共同研究費

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォトニ クス研究所
基準値	843,823千円	1,296,354千円	497,081千円	125,289千円
実績値	723,463千円	965,321千円	522,986千円	143,789千円
H29実績比	86%	74%	105%	115%
評点	6	4	8	8

【評価基準 (④)】

評価基準	評点
H29実績比 90%以上	8
H29実績比 80%以上90%未満	6
H29実績比 70%以上 80%未満	4
H29実績比 70%未満	2

⑤ 若手教員比率

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォトニ クス研究所
基準値	21%	30%	45%	17%
実績値	17%	32%	25%	50%
H29実績比	81%	107%	56%	294%
評点	2	4	2	8

【評価基準 (⑤) 】

評価基準	評点
H29実績比 130%以上	8
H29実績比 110%以上130%未満	6
H29実績比 90%以上 110%未満	4
H29実績比 90%未満	2

共通項目評点合計

項目	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォトニ クス研究所
① 論文数 (Scopus)	6	4	8	2
② 國際共著論文数 (Scopus)	4	6	8	2
③ SNIP (Scopus)	8	6	8	4
④ 外部資金獲得金額	6	4	8	8
⑤ 若手教員比率	2	4	2	8
評点	26	24	34	24

(2) 選択項目

① 学会発表数（国際・国内学会）

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォトニ クス研究所
基準値	2,139件	2,374件	288件	397件
実績値	1,067件	1,270件	225件	262件
H29実績比	50%	53%	78%	66%
評点	2	2	3	2

② 特許

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォトニ クス研究所
評点*				3

*出願件数・取得件数・特許料収入の評点の平均

〔出願件数〕

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォトニ クス研究所
基準値				1件
実績値				11件
H29実績比				1100%
評点				5

〔取得件数〕

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォトニ クス研究所
基準値				1件
実績値				0件
H29実績比				0%
評点				2

〔特許料収入〕

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォトニ クス研究所
基準値				1,664千円
実績値				495千円
H29実績比				30%
評点				2

③ 寄附金受入金額

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォトニ クス研究所
基準値		778,053千円	107,122千円	
実績値		806,792千円	161,029千円	
H29実績比		104%	150%	
評点		4	5	

④ 外部組織参画件数

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォトニ クス研究所
基準値	432件			
実績値	434件			
H29実績比	100.4%			
評点	4			

【評価基準（選択項目共通）】

評価基準	評点
H29実績比 130%以上	5
H29実績比 100%以上130%未満	4
H29実績比 70%以上 100%未満	3
H29実績比 70%未満	2

選択項目評点合計

項目	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォトニ クス研究所
① 学会発表数	2	2	3	2
② 特許				3
③ 寄附金受入金額		4	5	
④ 外部組織参画件数	4			
評点	6	6	8	5

(3) 達成必須項目

① 研究倫理教育受講率

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォトニ クス研究所
基準値	100%	100%	100%	100%
実績値	100%	100%	100%	100%
評点	0	0	0	0

② 情報倫理教育受講率

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォトニ クス研究所
基準値	100%	100%	100%	100%
実績値	95.6%	100%	100%	100%
評点	-1	0	0	0

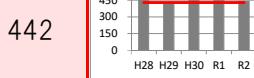
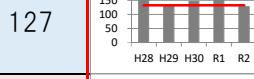
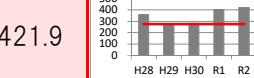
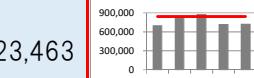
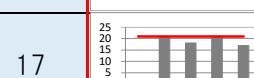
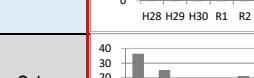
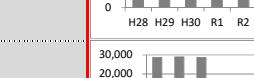
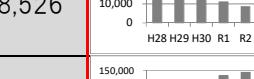
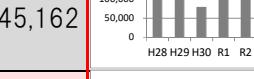
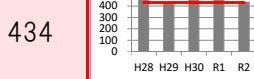
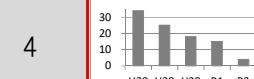
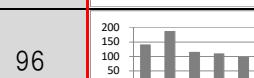
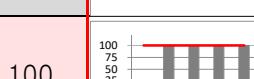
【評価基準（①・②共通）】

評価基準 1	評点
100%を満たしている	0
95%以上100%未満	-1
90%以上95%未満	-3
90%未満	-5

達成必須項目評点合計

項目	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォトニ クス研究所
① 研究倫理教育受講率	0	0	0	0
② 情報倫理教育受講率	-1	0	0	0
評点	-1	0	0	0

今年度の基準・目標
目標達成項目
目標未達項目
評価対象外

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
共通項目	論文数 (Scopus)	430	476	430	462	521	442	
	国際共著論文数 (Scopus)	132	162	132	145	173	127	
	SNIP (Scopus) ※1	276.0	358.2	276.0	283.2	404.2	421.9	
	外部資金獲得金額 (千円) ※2	843,823	695,762	843,823	875,407	714,490	723,463	
	若手教員比率	21%	—	21	18	21	17	
選択項目	学会発表数	国際学会	565	517	565	473	478	208
		国内学会	1,574	1,489	1,574	1,418	1,218	859
	特許	出願件数	36	25	10	15	21	
		取得件数	対象外	14	16	20	14	16
	寄附金受入金額 (千円)	特許料 収入 (千円)	28,581	29,025	28,696	11,061	8,526	
		対象外	108,952	98,628	78,436	136,409	145,162	
	外部組織参画件数	432	449	432	450	478	434	
		対象外	34	25	18	15	4	
	一般市民向け講演件数	対象外	140	187	114	109	96	
		対象外	119	144	85	—	—	
達成必須 項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	99.7	100	100	100	
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	78.6	66.2	86.0	95.6	

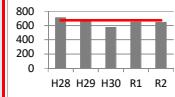
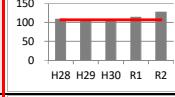
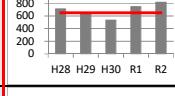
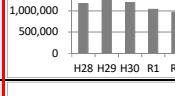
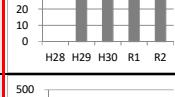
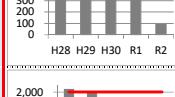
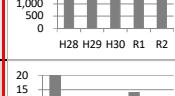
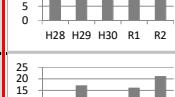
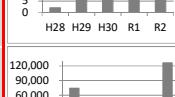
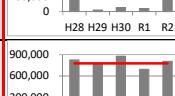
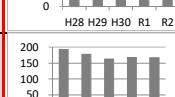
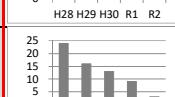
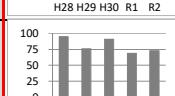
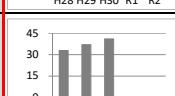
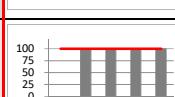
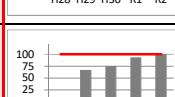
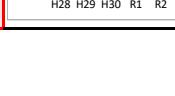
※1 補正を加えた論文の被引用度

※2 科研費、受託・共同研究費

【H27～H30までの実績について】

組織改編による教員の異動を反映させているため、平成31年度実施の組織評価で示した数値と異なっている。

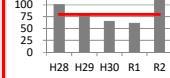
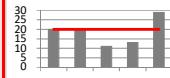
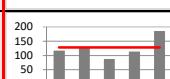
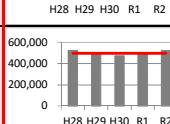
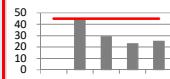
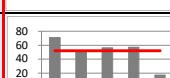
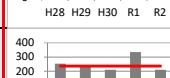
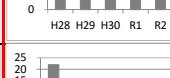
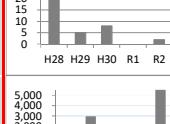
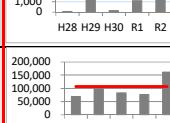
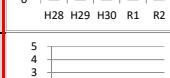
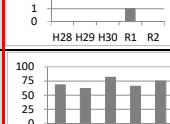
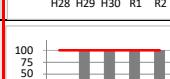
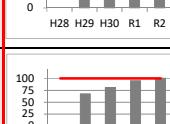
今年度の基準・目標
目標達成項目
目標未達項目
評価対象外

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移	
			H28	H29	H30	R1	R2		
共通項目	論文数 (Scopus)	674	708	674	572	650	646		
	国際共著論文数 (Scopus)	107	109	107	106	114	127		
	SNIP (Scopus) ^{※1}	651.0	712.9	651.0	534.5	746.2	817.3		
	外部資金獲得金額 (千円) ^{※2}	1,296,354	1,173,139	1,296,354	1,189,839	1,036,405	965,321		
	若手教員比率	30%	—	30	28	31	32		
選択項目	学会発表数	国際学会	368	405	368	377	307	90	
		国内学会	2,006	2,104	2,006	1,755	1,777	1,180	
	特許	出願件数	20	11	12	14	9		
			2	17	8	16	21		
		特許料収入 (千円)	74,584	3,260	8,706	6,770	125,678		
	寄附金受入金額 (千円)	778,053	824,012	778,053	879,602	697,045	806,792		
		外部組織参画件数	対象外	193	178	163	168	167	
	公開講座担当数	対象外	24	16	13	9	3		
		一般市民向け講演件数	対象外	95	76	91	69	73	
	地域連携教育実施件数 (フィールドワーク等)	対象外	33	37	41	—	—		
達成必須項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	98.2	100	100	100		
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	65.8	74.2	92.4	100		

※1 準正を加えた論文の被引用度

※2 科研費、受託・共同研究費

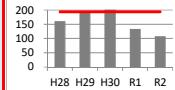
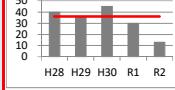
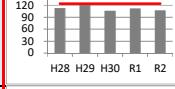
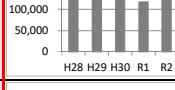
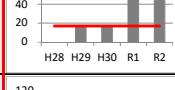
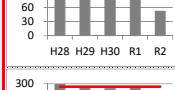
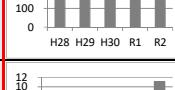
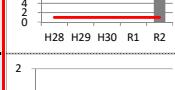
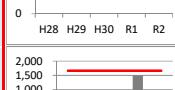
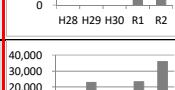
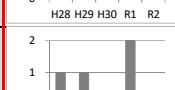
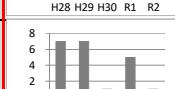
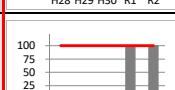
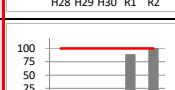
今年度の基準・目標
目標達成項目
目標未達項目
評価対象外

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移	
			H28	H29	H30	R1	R2		
共通項目	論文数 (Scopus)	80	100	80	65	61	120		
	国際共著論文数 (Scopus)	20	20	20	11	13	29		
	SNIP (Scopus) ^{※1}	128.1	115.7	128.1	86.2	112.1	183.7		
	外部資金獲得金額 (千円) ^{※2}	497,081	522,754	497,081	474,022	483,623	522,986		
	若手教員比率	45%	—	45	29	23	25		
選択項目	学会発表数	国際学会	52	71	52	56	57	17	
		国内学会	236	250	236	207	330	208	
	特許	出願件数	22	2	5	2	0		
			24	5	8	0	2		
		特許料収入 (千円)	43	2,933	120	1,076	5,490		
	寄附金受入金額 (千円)		107,122	69,090	107,122	83,123	76,489	161,029	
	外部組織参画件数		対象外	34	31	31	37	37	
	公開講座担当数		対象外	—	—	—	1	0	
	一般市民向け講演件数		対象外	68	62	82	66	75	
達成必須項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	100	100	100	100		
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	67.0	80.4	94.9	100		

※1 補正を加えた論文の被引用度

※2 科研費、受託・共同研究費

今年度の基準・目標
目標達成項目
目標未達項目
評価対象外

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移	
			H28	H29	H30	R1	R2		
共通項目	論文数 (Scopus)	194	159	194	200	132	106		
	国際共著論文数 (Scopus)	36	40	36	45	30	13		
	SNIP (Scopus) ^{※1}	124.2	111.8	124.2	105.2	111.1	105.8		
	外部資金獲得金額 (千円) ^{※2}	125,289	129,082	125,289	135,346	117,250	143,789		
	若手教員比率	17%	—	17	17	54	50		
選択項目	学会発表数	国際学会	113	96	113	108	115	52	
		国内学会	284	295	284	273	282	210	
	特許	出願件数	1	—	—	—	—	11	
		取得件数	1	—	—	—	—	0	
	寄附金受入金額 (千円)	特許料 収入 (千円)	1,664	—	—	—	1,482	495	
		対象外	4,404	22,992	12,545	23,237	35,945		
	外部組織参画件数	対象外	10	12	12	11	12		
	公開講座担当数	対象外	1	1	—	2	0		
	一般市民向け講演件数	対象外	7	7	1	5	1		
達成必須 項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	—	100	100		
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	—	88.0	100		

※1 補正を加えた論文の被引用度

※2 科研費・受託・共同研究費

【H27～H30までの実績について】

組織改編に伴う教員の異動を反映させている。

3 グループ3（共同教育研究施設等）

【最終評価結果】

評価項目の達成状況等を踏まえ、組織運営等状況報告書に基づき、評価者（学長、教育担当理事、研究担当理事、地域・産官学連携担当理事、総務・財務担当理事）が5段階で評価し、各評価者の合計点を当該部局の最終評価結果とする。
グループ3の評点の上位4部局にはインセンティブ経費を配分する。

組織名	評点	順位		備考
		昨年	今年	
教養教育院	15	14	11	
人と地域共創センター	20	8	1	
情報センター	23	3	3	
放射線総合センター	20	8	8	
高等教育研究センター	20	8	11 8	国際センター 高等教育研究センター
環境防災研究センター	25	1	7	
研究支援・産官学連携センター	23	3	5	
AWAサポートセンター	23	3	5	
先端研究推進センター	23	3	-	
デザイン型AI教育研究センター	16	13	-	
産業院	23	3	1	
バイオイノベーション研究所	24	2	-	
埋蔵文化財調査室	13	15	13	
附属図書館	18	12	8	
キャンパスライフ健康支援センター	20	8	3	

【評価基準（グループ3・4）共通】

評価基準	評点
目標達成に向けた取組が、優れた成果・効果をあげている	5
目標達成に向けた取組が、着実に実施されている（標準）	4
目標達成に向けた取組が、ある程度実施されている	3
目標達成に向けた取組が、十分に実施されていない	2
目標達成に向けた取組が、実施されていない	1

組織運営等状況報告書

部局名（教養教育院）

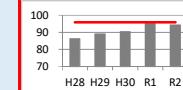
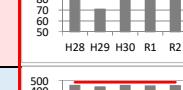
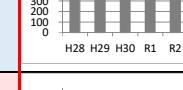
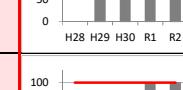
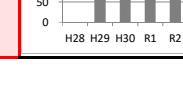
評価項目の令和2年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	TOEIC-IP/TOEFL ITPの受験率及び平均点
	令和2年度のTOEFL ITP受験率は、目標を大幅に上回った（受験率96.8% 平成27年度比27.0%向上）。TOEIC-IPの受験率についても高い水準を維持している。スコアについても、令和2年度は平成27年度比6%向上を目標としており、TOEIC-IPにおいて目標を上回る結果となった（平均点413.0点、平成27年度比7.4%向上）。語学・マイレージプログラムを始めとする各種の取組みにより、学生の英語学習への動機付けができ、結果としてTOEIC-IPのスコア向上に繋がったと考えられる。

今年度の基準・目標

目標達成項目

目標未達項目

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
選択項目	TOEIC-IP 受験率 [1年次]	96.0%	86.3	89.0	90.4	95.1	94.4	
	TOEIC-IP 平均点 [1・3年次] ^{※1}	407.8点	392.0	382.9	395.8	390.5	413.0	
	TOEFL-ITP 受験率 [1年次]	80.8%	81.8	71.0	97.2	97.3	96.8	
	TOEFL-ITP 平均点 [1・3年次] ^{※1}	486.2点	456.1	441.2	456.6	450.0	453.3	
達成必須項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	92.3	100.0	100.0	100.0	
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	69.2	69.2	100.0	100.0	

【選択項目の基準目標】H27実績比106%

※1 R1年度実績までは1・2年次が対象

組織運営等状況報告書

部局名（人と地域共創センター）

評価項目の令和2年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	課題解決事業の実施状況
	<p>令和2年度は、新たに2件の地域連携協定を締結するとともに、県内自治体から本学への要望事項(151件)に対してマッチングを行い、134件（前年度123件）の事業を実施・展開した。また、サテライトオフィスやフューチャーセンターを拠点として、地域ニーズに対応した地域創生事業を継続して実施した。これらの事業展開などにより184件の地域課題解決事業を実施し、目標値（175件）を達成できた。</p>

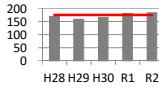
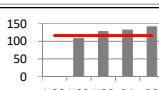
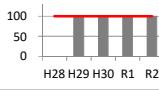
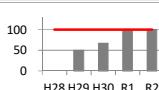
項目名	地域との対話の場の設定件数
	<p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、対面による取組実施が困難となるなか、フューチャーセンターを活用したZoom等によるオンライン開催などの工夫により、「地域交流シンポジウム」、「タウンミーティング」、「まちしごとファクトリー」等の事業を継続して実施する等、地域との対話の場を積極的に設定した結果、目標値（116件）を上回る140件の対話の場を設定することができた。</p>

項目名	公開講座・公開授業（新設講座数6講座以上）
	<p>令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置への対応を踏まえ、従来から実施している対面形式、オンライン形式講座に加え、対面形式とオンライン形式を融合したハイブリッド形式の講座を新たに企画し、「Withコロナ時代のオンライン学習入門」として開講した。全体としては、春夏期において「韓国考古学を学ぶ」「サイバーレッスン ホノルルマラソンを走ろう！」の2講座、秋冬期において「Withコロナ時代のオンライン学習入門」「岩木山・八甲田山 紅葉探訪（登山編）」「語り合う認知症：地域で何ができるのか」「そこが知りたい起業 初めて起業した日に読む話」の4講座、年間合計6講座を新設した。</p>

今年度の基準・目標

目標達成項目

目標未達項目

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
選択項目	課題解決事業の実施状況	175件以上(H27比150%)	170	159	166	181	184	
	地域との対話の場の設定件数	116件以上	—	108	127	131	140	
	市民・社会人向け公開講座・公開授業	新設講座数 受講者満足度(4段階)	6講座以上 3.8以上	6 3.84	7 3.83	10 3.80	8 3.80	6 3.28
達成必須項目	研究倫理教育受講率[教員]	100%	—	100.0	100.0	100.0	100.0	
	情報倫理教育受講率[教員]	100%	—	50.0	66.7	100.0	100.0	

組織運営等状況報告書

部局名（情報センター）

評価項目の令和2年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	情報リテラシー・スキル向上のための活動（情報セミナー（コンテンツ配信含む））
	<p>FD教育の一環として全学教職員にオンライン講義ツール「Teams」「Zoom」の大規模なオンライン説明会（会場参加39人、オンライン参加350人）を実施し、説明会の模様を全学にオンデマンド配信することで極めて短期間で全学周知することが出来た。また、遠隔講義に関する技術情報をHPに掲載し共有するとともに、システム面での配慮を図った結果、4月15日のオンライン授業の開始を開始し（全国の大学で6番目）円滑に運用出来ている。</p> <p>情報セキュリティセミナー（動画視聴形式・836人視聴）を開催し、情報セキュリティポリシーの改正、遠隔講義の注意点、情報セキュリティの近況について行った。情報セキュリティポリシーの浸透とセキュリティ意識の向上が期待できる。これらの取組の結果、目標値2件を超える5件を達成した。</p>

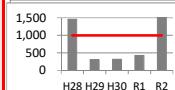
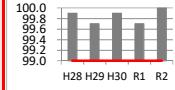
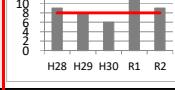
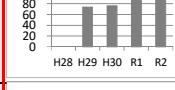
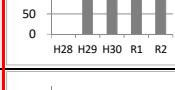
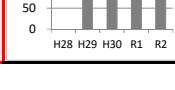
項目名	情報セキュリティ教育（INFOSS受講率）
	<p>情報セキュリティ教育受講のさらなる徹底に向けて、部局情報セキュリティ責任者及び担当者と未受講者情報の共有を密にし、情報センターからも受講について個別に働きかけた結果、ほとんどの部局が100%受講になるなど（100%に達しない部局2部局）、目標値96.1%を上回る99.6%（3,239/3,253名）となり目標を達成した。</p>

項目名	基盤サービス・ネットワーク安定提供（ネットワーク稼働率）
	<p>本年度は、令和元年度に更新した情報基盤の主要なネットワーク機器の安定稼働についてめた。その結果、本学を原因とする大規模（全学停止）なネットワーク障害は発生しておらず、安定したネットワーク環境を提供出来た。これは、更新時の冗長化設計に加えて、日々の機器の目視点検や遠隔監視、異常ログの取得などの日常の監視業務、悪意のあるサイトへのアクセス制限や外部から不適切なアクセスを遮断する対応などの活動によるものである。</p> <p>以上の結果、8,634時間という年間稼働想定に対して、稼働率100%という高品質なサービスを利用者に提供し、令和2年度の目標値99%以上を達成した。</p>

今年度の基準・目標

目標達成項目

目標未達項目

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
選択項目	情報化推進による情報環境 [VPNアカウント数]	1,000以上	1,458	308	316	432	1,784	
	基盤サービス・ネットワーク安定提供 [ネットワーク稼働率]	99%以上	99.9	99.7	99.9	99.7	100.0	
	部局等への助言型内部監査実施	8部局以上	9	8	6	11	9	
	情報セキュリティ教育 [INFOSS受講率]	96.1%以上	—	73.9	76.2	92.2	99.6	
	情報リテラシー・スキル向上 のための活動 [情報セミナー（コンテンツ配信含む）]	2件以上	—	—	—	—	5	
達成必須 項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	100.0	100.0	100.0	100.0	
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	100.0	85.7	100.0	100.0	

組織運営等状況報告書

部局名（放射線総合センター）

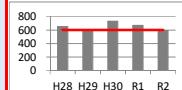
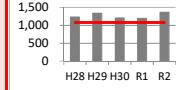
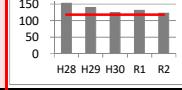
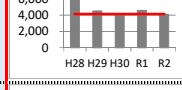
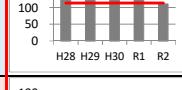
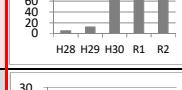
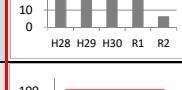
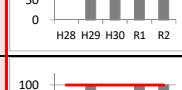
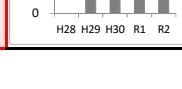
評価項目の令和2年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	教育訓練の実施
	<p>コロナ禍においても放射線業務に支障のないように、法令で定められている放射線業務従事者の新規教育訓練・再教育訓練をe-learning及びTeams、少人数の場合やRI取扱い実習に限り対面にて実施した。</p> <ul style="list-style-type: none">新規教育訓練受講者は延べ人数597人で令和2年度基準・目標値の99%、再教育訓練受講者数は1360人で令和2年度基準・目標値の126%を達成できた。なお、再教育訓練については、e-learningとe-learningでは対応できない受講項目をTeamsにて分割して実施したため、例年より延べ人数が増加した。

項目名	オリエンテーションの実施
	<p>コロナ禍においてもセンター利用者の研究に支障のないように、施設利用のためのオリエンテーションはTeamsを利用し、施設内の見学・説明は時間をずらして放射線取扱主任者と利用者の1対1で行うことにより、感染症対策を行いながら滞りなく実施できた。</p> <ul style="list-style-type: none">受講者数123人で令和2年度基準・目標値の104%を達成できた。

項目名	研究施設の使用状況
	<p>自立型非接触式体温計を受付前に設置するとともに、受付にフィルムシートを張ることで飛沫対策を行い、コロナ禍であっても継続的に施設利用をできるようにした。</p> <p>また、管理区域内の教育訓練実習室にCO2濃度を測定するためのCO2濃度測定器を設置して、換気システムが稼働している管理区域内でCO2の基準値を超えないことを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none">使用回数4072回で令和2年度基準・目標値の98%、使用者数110人で令和2年度基準・目標値の97%まで近づけることができた。

—— 今年度の基準・目標
 目標達成項目
 目標未達項目

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
選択項目	教育訓練の実施 [受講者数]	新規教育訓練 603人以上	653	582	734	670	597	
		再教育訓練 1,076人以上	1,232	1,334	1,198	1,195	1,360	
	オリエンテーションの実施 [受講者数]	118人以上	153	140	125	131	123	
		回数 4,150回以上	6,079	4,521	4,138	4,611	4,072	
	研究施設の 使用状況	使用者数 113人以上	153	140	125	125	110	
		回数 84件以上	5	12	92	93	98	
	社会貢献推進 [一般向け放射線関連講座の開催状況]	新型コロナ ウイルス終 息後再開	20	21	17	17	6	
達成必須 項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	100.0	100.0	100.0	100.0	
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	100.0	75.0	100.0	100.0	

組織運営等状況報告書

部局名（高等教育研究センター）

評価項目の令和2年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	全学FD実施状況
	<p>コロナ禍に対応し、全学FD推進プログラム「すぐ使える90分セミナー」をオンラインで開催し、教員がオンライン授業を実施するために最低限必要な知識や具体的な授業方法を提供した。実践が蓄積されてきた後期には、オンライン授業における双方向性の確保や成績評価の仕方などをテーマとしたFDを実施した。</p> <p>また、「教育の内部質保証方針」に基づき、教育プログラムの評価・改善に關わるFDプログラムを開始し、教育改革を推進するFDとしては、本学の教学アンケートの整理、統合に関する検討を教育担当理事とともに進めた。</p> <p>各学部等においてもFD活動に取り組んだ結果、<u>参加率は94.8%であり、目標値「教員参加率：75%以上」を達成した。</u></p>

項目名	知プラe科目への本学の学生の受講者数
	<p>令和2年度において、知プラe科目を本学として12科目（前期：1科目、後期：11科目）の提供を行った。ガイダンスの回数を増やし、より良い環境の提供に加え、きめ細やかな指導に取り組んだ結果、令和2年度は、<u>コロナ禍もあり受講者数が811人となり、目標値である250人を大幅に超え達成した。</u></p> <p>今後も、より良いコンテンツの提供ができるよう学生ニーズを考えた取組を検討していくこととする。</p> <p>【参考：受講者数】</p> <p>平成29年度：138名</p> <p>平成30年度：325名</p> <p>令和元年度：452名</p> <p><u>令和2年度：811名（前年度比：約180%増加）</u></p>

項目名	e-Learningにおけるサポート数
	<p>令和2年度において、<u>e-Learningにおけるサポート数は、コロナ禍もありサポート件数が868件となり、目標値である150件を大幅に超え達成した。</u></p> <p>今後も、e-Learningにおけるサポートを丁寧に行い、学生の学修に係る一助となりうる取組を続けることとする。</p> <p>【参考：サポート数】</p> <p>令和元年度：194件</p> <p><u>令和2年度：868件（前年度比：約450%増加）</u></p>

—— 今年度の基準・目標

目標達成項目

目標未達項目

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
選択項目	全学FD実施状況	教員参加率	75%	90.25	90.39	88.64	90.05	94.82
	知プラe科目への本学の学生の受講者数		250名以上	17	66	138	325	811
	キャリア支援室主催のガイダンス、セミナー	オンライン開催率	50%以上	—	—	—	—	94.0
		開催件数	参考 (R1年度まで評価対象)	45	64	70	70	71
	e-Learningにおけるサポート数		150件以上	192	223	190	194	868
共通項目	学生の海外派遣者数 [※] 〔短期海外語学研修〕 R2年度はオンライン含む		36人	33	18	49	43	69
	研究倫理教育受講率 〔教員〕		100%	—	100.0	100.0	100.0	100.0
	情報倫理教育受講率 〔教員〕		100%	—	57.9	52.9	83.3	100.0

※ 高等教育研究センター学修支援部門国際教育推進班 主催分

組織運営等状況報告書

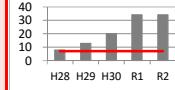
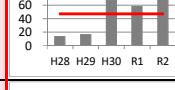
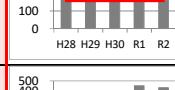
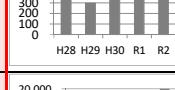
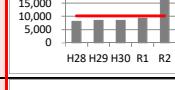
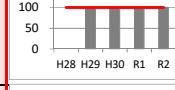
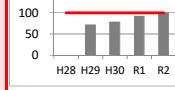
部局名（環境防災研究センター）

評価項目の令和2年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	地域防災の啓発活動（セミナー等の開催回数）
	令和2年度は、コロナ禍が拡大する中でも、オンラインを積極的に活用し、「とくしま大学環境防災Café」を毎月欠かさず開催した。そこでは、市民、学生、行政・企業・マスコミ関係者に向けて、本センターのスタッフが環境と防災に関する最新の研究や取組みをわかりやすく紹介し、出席者間で意見交換を行った。 また、ガレリア新蔵では、徳島大学の防災展～吉野川の洪水警鐘 高地蔵さん～という企画展を開催し、防災グッズや水害対策技術の紹介や災害時の避難所間仕切りデザインコンテストなどの啓発活動を行った。これは多くのマスコミにも紹介され、好評を博した。 これらの取組の結果、令和2年度の実施回数は計34回となり、目標値（H27、7回）を、大幅に目標達成した。
項目名	メディアを活用した啓発活動（TV出演等の回数）
	令和2年度においては、エフエム徳島のラジオ番組「FRIDAY ONLINE」内でコーナー「防災Café」を設け、当センターの教員が週替わりでゲスト出演し、防災に関する身近な話題を提供するという啓発活動を新たに始め、計26回放送された。なお、本コーナーはセンターの経費を使って設けられたものであり、特色のある啓発活動と評価されている。 他にも、四国放送（フォーカス徳島）やNHK（とく6など）、徳島新聞等においても専門家の立場から防災・災害・環境等の知見を一般社会に紹介、解説した。 これらの取組の結果、令和2年度のTVなどへの出演等の回数は計70回となり、目標値（過去3年間の実績平均、47回）の51%増加と大幅に目標を達成した。

項目名	受託事業受入状況
	令和2年度においては、毎年受託している地域防災力強化人材育成推進事業（徳島県：7,362,000円）と避難支援マップ作成業務（徳島市：759,876円）を引き続き受託するとともに、新たに一条工務店から「災害前住居移転促進及び応急仮設住宅建設のための敵地選定と防災意識啓発南海トラフ地震に対する事前防災・減災対策」業務（11,700,000円）を学術指導料として受託した。 これらの取組の結果、令和2年度の受託事業の受入額は19,821,876円となり、目標値（H27比1.2倍以上、10,189,000円）の95%増加となり、大幅に目標達成した。

—— 今年度の基準・目標
 目標達成項目
 目標未達項目

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
選択項目	地域防災の啓発活動 [セミナー等の開催回数]	7回以上 (H27実績)	8	13	20	34	34	
	メディアを活用した 啓発活動 [TV出演等の回数]	47回以上 (過去3年間 実績平均)	13	16	67	58	70	
	セミナー等における講師 等派遣者数	157人 以上 (H27実績)	165	206	231	268	238	
	徳島大学防災リーダー講 座及び徳島県地域防災推 進員養成講座修了者数	342人 以上 (H27実績)	341	298	368	452	435	
	受託事業受入状況	10,189 千円以上 (H27比1.2倍)	8,179	8,429	8,509	9,359	19,822	
達成必須 項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	100.0	100.0	100.0	100.0	
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	71.4	77.8	91.7	100.0	

組織運営等状況報告書

部局名（研究支援・産官学連携センター）

評価項目の令和2年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

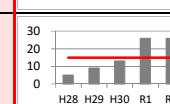
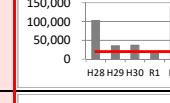
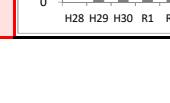
項目名	知的財産権等収入
	<p>令和2年度においては、知財活用に向けた取り組みとして、学内活動としては短期的施策と中期的施策を講じ、また学外活動としては、5つの地域戦略を立て積極的に知財活用を推進した。研究者との面談機会を増やし、短期的成果だけでなく中期的な視点で成長の可能性のある発明に対しても、知財化に向けた支援を充実させた結果、企業が価値を認め費用負担した有望特許の各国移行と大学単独出願（単願）が増え、近年減少傾向であった出願件数が大幅に増加（126件、R1年度比：約1.6倍）した。特に大型案件を発掘・育成するため、案件に適した専門性を有するURAを配置し、戦略的に集中支援を行った結果、大型ライセンス契約の締結に繋がり、コロナ渦という厳しい状況の中、目標値（20,000千円以上）を大幅に上回る過去最高の知的財産権等収入（140,190千円）を獲得した。</p>

項目名	共同研究受入状況
	<p>令和2年度においては、「組織」対「組織」の産学連携体制強化により、戦略的に共同研究等の外部資金を獲得するため、大学版SBIR制度を推進するとともに、大学発ベンチャー企業の設立支援等を通じて地域を活性化することを目指して、研究支援・産官学連携センター・産官学連携部門の機能強化を図った。また、共同研究等の産官学連携活動を推進するため、学術指導制度を導入し、さらに「産業院」と連携した活動により、令和2年度の共同研究費受入件数及び金額は、それぞれ309件及び591,509千円と目標値（300件、518,104千円：H27年度比1.2倍）を達成し、受入金額は、過去最高であった令和元年度の実績をさらに更新した。</p>

項目名	研究推進、産学連携セミナー等の開催件数
	<p>令和2年度においては、外部資金獲得に資する説明会・勉強会（JSPS、JST、AMED、総務省、NEDOの公募事業に関するもの及び製薬企業合同説明会など）を幅広く開催し、目標値（15件以上）を大幅に上回る開催数（26件）となっている。特に科研費獲得に向けた支援に注力し、8月に外部講師を招き計画調書作成に関するセミナーを、また、9月には外国人教員を対象としたセミナーを実施した。これらと連動し、のべ31名の若手を中心とした教員に対して科研費調書作成の集中支援を実施した結果、基盤研究B、C、若手研究など11件の採択（このうち基盤系種目に初採択された研究者は5名）があり、本学の外部資金獲得および若手研究者の研究力向上に貢献している。</p>

—— 今年度の基準・目標



区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
選択項目	共同研究※ 受入状況	件数	300件	272	272	305	312	309
		金額	518,104 千円	367,588	492,203	492,707	533,151	591,509
	受託研究※ 受入状況	件数	281件	235	195	195	172	161
		金額	1,253,796 千円	939,269	1,083,516	1,171,210	846,463	976,065
	大学発ベンチャー企業の 起業数	3件 以上	—	2	2	5	4	
	研究推進、産学連携セミ ナー等の開催件数	15件 以上	5	9	13	26	26	
達成必須 項目	知的財産権等収入	20,000 千円以上	103,210	35,400	37,520	20,392	140,190	
	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	100.0	100.0	100.0	100.0	
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	93.3	90.5	90.3	100.0	

※ 基準目標：H27実績比120%

組織運営等状況報告書

部局名（ AWAサポートセンター ）

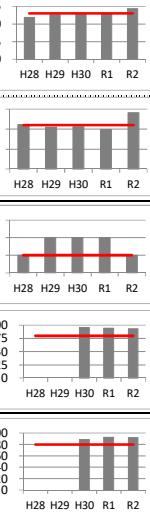
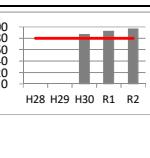
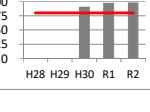
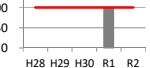
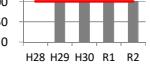
評価項目の令和2年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	ダイバーシティ推進にかかる支援活動・啓発・広報活動 及び女子学生・女性研究者のキャリア支援活動
R2年度は、新型コロナ感染拡大防止のため、シンポジウムとリーダー育成セミナー・キャリア形成支援セミナーを同日に、無観客・YouTubeライブ配信で開催した。北海道から九州まで25機関からの参加があり、利用者アンケートにおいて平均実績値93.5%と、高評価80%以上の目標値を達成した。また、裾野拡大事業の啓発・広報活動では、女子学生・女性研究者のキャリア支援活動に係るセミナーを2件開催した。利用者アンケートにおいて平均実績値96.1%と高評価80%以上の目標値を達成した。コロナ禍ではあったが、セミナー・シンポジウム等開催1件以上の目標を上回って開催した。	

項目名	女性研究者の研究力向上にかかる支援活動（共同研究支援、研究支援員配置、研究力向上セミナー等の開催）
ダイバーシティ推進共同研究制度では新規2件を選定し、継続7件とあわせ計9件を支援した。ライフィベント中の女性研究者14名に研究支援員の配置を行った。研究力向上セミナーは、英語論文3回、統計1回の計4回開催し、平均実績値91.9%とすべてのセミナーで高評価80%以上の目標値を達成した。優れた研究成果の持続的創出と活躍を目的に、ダイバーシティ推進共同研究表彰制度を創設し、女性研究者1名を表彰した。また、「徳島大学女性研究者イノベーションアワード」を創設し、科学技術イノベーション創出活動推進への多大な貢献をし、模範として期待される女性研究者3名を表彰した。これら表彰は、ホームページで広く発信した。	

項目名	ワークライフバランス支援にかかる施策の実施（育児支援、介護セミナー、男性育児・家事推進セミナー等の開催）
ワークライフバランス支援にかかる施策は、Kids Club1回（冬長期休暇中2日間）、大学入試センター試験実施時託児4日、介護支援セミナー1回、男性育児・家事推進セミナーを1回開催した。利用者アンケートでは平均実績値97.7%と、すべての取り組みにおいて高評価80%以上の目標値を達成し、高い評価を得た。	

今年度の基準・目標
目標達成項目
目標未達項目

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
選択項目	女性研究者の割合	上位職比率	13.0%	11.9	12.6	12.9	12.8	14.3
		在職比率	20.8%	21.1	20.5	20.6	19.9	24.1
	ダイバーシティ推進にかかる支援活動・啓発・広報活動 ^{※1}	開催件数	1件	1	2	2	2	1
		アンケートにおける高評価	80%以上	—	—	95.9	94.4	93.5
	女性研究者の研究力向上に係る支援活動 ^{※1} (共同研究支援、研究支援員配置、研究力向上セミナー等の開催)	80%	開催件数 3件 80%以上 3件	開催件数 4件 80%以上 4件	88.3	92.7	91.9	
	女子学生・女性研究者のキャリア支援活動 ^{※1} (リーダー育成セミナー、キャリア形成支援セミナー、裾野拡大セミナー等の開催)	80%	開催件数 2件 80%以上 2件	開催件数 5件 80%以上 5件	86.8	92.1	96.1	
達成必須項目	ワークライフバランス支援に係る支援施策の実施 ^{※2} (育児支援、介護セミナー、男性育児・家事推進セミナー等の開催)	80%	開催件数 5件 80%以上 5件	開催件数 5件 80%以上 5件	90.1	96.9	97.7	
	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	—	100.0	—	
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	100.0	100.0	100.0	100.0	

※1 支援活動に対する利用者アンケートの高評価

※2 施策に対する利用者アンケートの高評価

組織運営等状況報告書

部局名（先端研究推進センター）

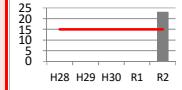
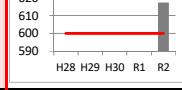
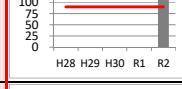
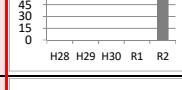
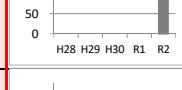
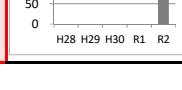
評価項目の令和2年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	コロナ禍における動物実験継続計画の実施
	新型コロナウイルス感染症に対する動物実験継続計画（ACP）を策定し、本学BCPレベルに対応した実験規模の縮小や動物実験施設の入室制限等を適宜実施することで、新型コロナ感染症対策と動物実験の維持の両立を図ることができた。また、学長裁量経費の手厚いサポートにより、入手困難となったマスク、グローブ、消毒液等の衛生資材も、過不足無く調達することができ、実験動物の飼育数は約10%減少したものの、日平均の利用者数は107人と例年通りの利用状況を維持することができた。

項目名	動物実験施設における温室効果ガスの排出量削減
	ESCO事業に加えて、動物実験施設の換気風量の削減に取り組んだ。具体的には、1～3階のSPFエリアの風量を70%に削減し、4～5階のSPFエリアの風量を60%に削減することに成功した。すべての飼育室、廊下等の温湿度、吸排気量、粉塵量、臭気、室間差圧等の項目で環境モニタリング測定を行い、SPF施設の清浄性に対し、風量削減による影響がないことを確認した。この結果、風量削減を行わなかった場合と比べ、約3,299,502 MJの一次エネルギー削減（光熱費5,620千円の削減効果）を達成した。

項目名	イメージング機器群の効果的な運用
	光イメージング並びにin vivoイメージング機器を運用することで研究支援活動を行なった。R2年度はコロナ禍のため、外部講師を招聘しての技術講習会を実施することができず、機器利用が前年度比で50%以下まで落ち込む恐れがあったが、本部門スタッフの工夫で講習のオンデマンド化や撮影支援など新たなサービスを導入し、本学の研究者41名を対象にした15回の技術講習会を実施することができた。その結果、大きく落ち込むことが予想された機器使用実績を前年度比105%に増加させるなど、コロナ禍で生じた研究上の制約を回避することに大きく貢献した。

—— 今年度の基準・目標
 目標達成項目
 目標未達項目

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
選択項目	教育訓練 講習会の実施	回数	15回				23	
		受講者数	600人				617	
	研究施設の使用状況 [使用者数/日]		90人				107	
	技術支援 [胚生殖工学,画像データ解析]		60件				65	
達成必須 項目	研究倫理教育受講率 [教員]		100%				100.0	
	情報倫理教育受講率 [教員]		100%				100.0	

令和2年度実績より対象

組織運営等状況報告書

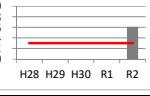
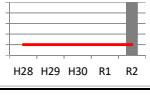
部局名（デザイン型AI教育研究センター）

評価項目の令和2年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	デザイン型AI教育研究センター主催の講演会・セミナーの開催件数
令和2年度においては、デザイン型AI教育研究センターを発足し、学内及び地域における数理・データサイエンス・AIを推進する体制を構築した。データサイエンス・AIに関する教育改革について、学外の有識者による講演会及び、学内のAI関連研究者による講演会を合計で6件実施した。令和2年度の目標値3件を上回り、大きく達成している。	

項目名	デザイン型AI教育研究センター制作のオンラインコンテンツ件数
令和2年度においては、徳島の未来を担う子供たちのAI教育を進めるため、「とくぽんAI塾」を設置し進めており、オンラインや対面による授業を実施するだけでなく、塾生向けのオンラインコンテンツを制作しHPから閲覧可能にしている。オンラインコンテンツが閲覧できることにより、時間や場所の制約を受けずに受講でき、一度受講した内容の再確認ができる環境を整えることで、AIを学ぶ機会を増やし、教育を推進した。令和2年度の塾生向けオンラインコンテンツは5件制作し、目標値を達成している。	

今年度の基準・目標
 目標達成項目
 目標未達項目

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
選択項目	デザイン型AI教育研究センター主催の講演会・セミナーの開催件数	3件					6	
	デザイン型AI教育研究センター制作のオンラインコンテンツ件数	1件					5	
達成必須項目	研究倫理教育受講率※ [教員]	100%					—	
	情報倫理教育受講率※ [教員]	100%					—	

※ 倫理教育については、本務先で計上

組織運営等状況報告書

部局名（ 産業院 ）

評価項目の令和2年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	支援体制の強化による产学連携の推進
令和2年度は、教育・研究成果の迅速な事業化・産業化に資する産業院教員を新たに2名選考し、また、産業院教員を伴走支援する产学連携コーディネータを新たに1名雇用し、優れた研究成果の社会実装が見込まれる産業院教員の产学連携活動を推進した。上記のように産業院の体制を強化し、共同研究の締結、競争的資金への申請、ベンチャー企業の設立等、各産業院教員へのオーダーメードの伴走支援を重点的に行った結果、産業院教員による大学発ベンチャー企業が1社設立されるとともに、1億2千万円以上のライセンス等収入の獲得に繋がった。	

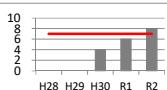
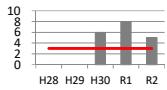
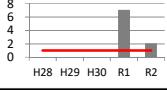
項目名	アントレプレナーシップ教育の推進及び支援体制強化
令和2年度においては、昨年度の3つの授業に加え、新たに一般社団法人徳島イノベーションベース（TIB）と協力し、「テクノロジーとビジネス」の授業を開講した結果、この授業を履修した学生が様々な賞を受賞した。（以下主なものを抜粋） <ul style="list-style-type: none">・ サポーター特別賞（2020年度とくしま創生アワード）・ 最優秀賞・ビジネス賞テレコムサービス協会四国支部会長賞（四国ビジネスデザイン発見＆発表会（ゼータ）2020） また、スタートアップスタジオ（U-tera）において、伴走支援する学生が高齢者向けのサービスの提案・解決を実施する株式会社GoFerを設立した。さらに別の学生がオンラインLIVEクッキングサービス“WORLD APRON”的サービスを開始し、事業化を進めている。	

項目名	企業との連携強化とバイオイノベーション研究所の支援
産業院活動報告会を開催し、本学教職員に加え、連携企業、関係団体等55名に参加いただき、連携を強化するとともに、徳島大学発ベンチャー企業の創業支援、経営支援を目的として設立された（株）産学連携キャピタルと協定を締結し、取組を進めた結果、同社から2件の徳島大学発ベンチャーに対する出資が実施された。 さらに、生物資源系のイノベーション促進を目的としたバイオイノベーション研究所の設立を支援し、また、ムーンショット型農林水産研究開発事業の受託を支援した。さらにキックオフセミナーを共催し、本学教職員に加え、文部科学省、経済産業省、自治体、企業、金融機関等252名に参加いただき、産官学連携活動の推進に取り組んだ。	

今年度の基準・目標

目標達成項目

目標未達項目

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
選択項目	産業院（企画戦略部門）が伴走支援するプロジェクト数	7	—	—	4	6	8	
	産学連携、起業・経営人材育成等産業院セミナーの開催件数	3件	—	—	6	8	5	
	連携協定実施件数	1件	—	—	—	7	2	
達成必須項目	研究倫理教育受講率※ [教員]	100%	—	—	—	—	—	
	情報倫理教育受講率※ [教員]	100%	—	—	—	—	—	

※ 倫理教育については本務先で計上

組織運営等状況報告書

部局名（バイオイノベーション研究所）

評価項目の令和2年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	誘致企業数
	令和2年度にBIRC（石井農場）に駐在している企業は、ミヤリサン製薬とJTEKTの2社であり、目標値を達成している。 ミヤリサン製薬とは、平成30年度に共同研究契約を締結し、3名の研究員が駐在して令和2年2月に寄附いただいた先端畜産システム開発施設を活用し、豚の共同研究を進めている。JTEKTとは、平成30年度に3件の共同研究契約を締結し、1名の研究員が駐在して移動式動物実験施設等の共同研究を進めているが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、この研究成果を活用した取り組みとして、県・本学・JTEKTの3者で「产学研官連携による移動式検査施設等の開発及び災害時の利用等に関する協定」を締結し、移動式PCR検査施設を新たに開発して徳島県立中央病院及び徳島県立海部病院において稼働している。

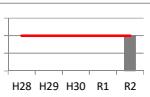
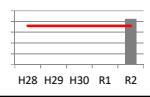
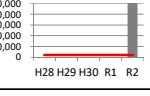
項目名	所属研究者数
	令和2年7月の開設時点では、併任教員のみ17名（生物資源産業学部10名、総合科学部2名、医学部3名、理工学部2名）であり、本学教員のみでは目標値に達していないが、前記の誘致企業から4名の研究員が駐在しており、合わせると21名の研究者がBIRCで活動しており目標値を達成している。 また、令和3年度に部局化する検討を進め、令和3年4月から、生物資源産業学部及び研究支援・产学研官連携センターから合わせて7名の教員が転籍するとともに、新たに特任准教授1名と特任研究員1名を採用し、専任の研究者は9名となった。また、生物資源産業学部から2名、先端研究推進センターから1名の併任教員が新たに参画した。令和3年4月1日時点では、誘致企業から研究者を含め、26名の研究者が在籍している。

項目名	外部資金獲得金額
	前記の本学研究者17名で令和2年度に獲得した外部資金額は、248,845,251円であり、目標値を大幅に上回って達成している。内訳は、医学部籍の教員が約1億、生物資源産業学部籍の教員が約1億1千万とこの2学部で大半を占める。獲得額を押し上げた要因として「ムーンショット型農林水産研究開発事業」に採択されたことが挙げられる。10年間の大型事業であり、令和2年度の受入額は2千7百万円である。このほか、大型共同研究として、ミヤリサン製薬から3千万円、JTEKTから約3千1百万円、大塚製薬工場から1千万円を受け入れている。また、OPERAなどの受託研究費や科研費、寄附金などもコンスタントに獲得している。

今年度の基準・目標

目標達成項目

目標未達項目

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
選択項目	誘致企業数	2社					2	
	所属研究者数※1	18名					21	
	外部資金獲得金額※2	10,000千円				令和2年度実績より対象	248,845	
達成必須項目	研究倫理教育受講率 〔教員〕※3	100%					—	
	情報倫理教育受講率 〔教員〕※3	100%					—	

※1 誘致企業からの研究者4名を含む

※2 併任教員17名による

※3 倫理教育については本務先で計上

組織運営等状況報告書

部局名（埋蔵文化財調査室）

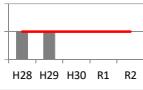
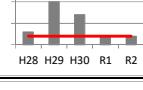
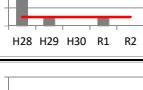
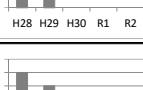
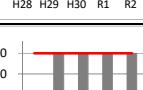
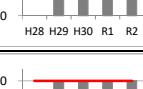
評価項目の令和2年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	発掘調査の効率的実施
	<p>蔵本地区にて、多用途型トリアージスペースの工事に伴って発掘調査1件を実施した。新型コロナウイルスに対する対応のため、急を要する案件であったにもかかわらず、SfM/MVSといった最新の三次元モデル作成ソフトウェアを活用することによって、調査期間を大幅に短縮することができ、予定の期間内に無事、調査を終えることができた。調査の結果、弥生時代の始まり頃（約2500年前）の水田跡が確認され、徳島平野で水稻農耕を始めた当初の集落像がより鮮明となった。こうした成果については、今後、展示会・市民講座などの開催を通じて、市民に広く公開する予定である。</p>

今年度の基準・目標

目標達成項目

目標未達項目

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
選択項目	発掘調査報告書の刊行数	1件以上	1	1	0	0	0	
	ライフライン等整備に伴う工事立会調査件数	2件以上	3	10	7	2	2	
	市民講座開催件数	1件以上	6	1	0	1	0	
	展示会の開催件数	1件以上	2	1	0	0	0	
	資料調査協力件数	1件以上	6	4	3	0	2	
達成必須項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	100.0	100.0	100.0	100.0	
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	100.0	100.0	100.0	100.0	

組織運営等状況報告書

部局名（附属図書館）

評価項目の令和2年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	学生1人当たり月間貸出冊数
	<p>令和2年度の目標は、学術情報基盤実態調査結果（令和元年度実績）における同規模大学平均である学生一人当たり0.57冊以上としていたところ最終的に0.49冊に留まった。このことはコロナ禍による登校禁止措置、並びに開館時間の短縮措置等の影響により、学生の図書館入館者数は前年度より約5割減少したことが主たる原因と推察する。この状況下にあって附属図書館では、新たな施策として「臨時休館中の郵送貸出」や、「貸出冊数の増冊（上限5→10冊）」等の応策を施すことにより利用者の利便性維持を図った結果、学生の貸出冊数は前年度比約2割減に留まった。</p> <p>なお、目標値としていた令和元年度実績とは大きく乖離した状況にあることが推察されたことから、今般、改めて令和2年度の状況を同規模大学に照会したところ回答のあった5大学では平均0.34冊（三重0.25冊、島根0.62冊、香川0.32冊、愛媛0.25冊、熊本0.32冊）の実績であった。</p>

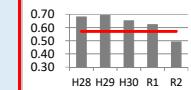
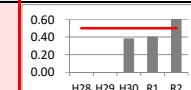
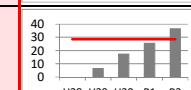
項目名	電子書籍の構成員1人当たり年間利用冊数
	<p>令和2年度は電子書籍の利用を促進するため、web版の利用マニュアル整備をはじめ、図書館内において電子リソースを視覚化するなどの工夫を施した上で電子書籍の周知を図った。また、コロナ禍における対策の一つとして電子書籍へのアクセスを一覧化した「自宅から利用できる電子リソース」を作成し、図書館ホームページにおいて広報した。</p> <p>令和2年度の重点的な取り組みとして、出版社から期間限定で提供される「電子書籍の無料利用（トライアル）」を効率的に活用することとし、数万冊に及ぶ電子書籍を学内外から利用できる環境を整えたことにより、電子書籍の利用が飛躍的に伸びた。さらに、トライアルにおける利用実績を考慮した選書等により電子書籍453冊を新たに整備した。</p> <p>これらの取組の結果、電子書籍の年間利用冊数は構成員1人当たり1.17冊となり、目標の0.5冊以上を達成した。</p>

項目名	学術論文のリポジトリ登録率（EDBにおけるリポジトリ登録率）
	<p>リポジトリ登録の推進を図る取組みとしては、令和元年度から運用しているEDBと機関リポジトリのシステム連携がある。また、登録推進策としてRPAによるリポジトリ未登録論文についての登録推奨メール（年2回）、リポジトリ登録済み論文の利用統計レポートの定期送信（年4回）を継続実施することにより、教員への理解浸透を図ってきた。さらに令和2年度は新たな施策として、オープンアクセスのジャーナルから“著者許諾不要の論文”を抽出しリポジトリへの登録作業を積極的に進めた。</p> <p>これらの取組の結果、EDBにおけるリポジトリ登録率28.6%（過年度最高値）以上の目標に対し、登録率は36.5%となり目標を達成した。</p>

今年度の基準・目標

目標達成項目

目標未達項目

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
選択項目	学生1人当たり月間貸出冊数 ^{※1}	0.57冊以上(人/冊)	0.68	0.69	0.65	0.62	0.49	
	電子書籍の構成員1人当たり年間利用冊数	0.5冊以上	—	—	0.38	0.40	1.17	
	学術論文のリポジトリ登録率 [EDBにおけるリポジトリ登録率] ^{※2}	28.6%以上	—	6.3	17.3	25.4	36.5	
達成必須項目	研究倫理教育受講率 [教員] ^{※3}	—	—	—	—	—	—	
	情報倫理教育受講率 [教員] ^{※3}	—	—	—	—	—	—	

※1 同規模大学（学術情報基盤実態調査B区分平均）以上

※2 論文発行年度の翌年度におけるリポジトリ登録率

※3 倫理教育については、本務先で計上

組織運営等状況報告書

部局名（キャンパスライフ健康支援センター）

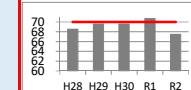
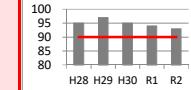
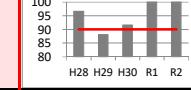
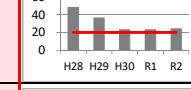
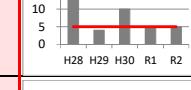
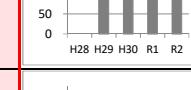
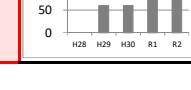
評価項目の令和2年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	学生定期健康診断受診率
	<p>令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症対策のための学生の入構制限の中、感染拡大を防止しながら集団での健康診断を実施することへの試行錯誤の中での健康診断実施であった。大学院生は例年通りの受診率が得られたが、学部生に関しては、前年度の75.4%が、令和2年度は70.8%と約5ポイント減少し、このため、学生全体の受診率が67.5%と前年の70.7%に及ばず、目標の70%に達することができなかった。学生が大学に来ることが少ない中で、健診の周知がメールとHPのみになり、受診勧奨や周知の機会が少ないと影響したのではないかと思われる。</p>

項目名	学生精神健康調査回収率
	<p>令和2年度においても学部新入生を対象に健康診断の一環として精神健康調査を実施、回収した。学部新入生のみを対象としているため、学部オリエンテーションでの周知により1342名中1242名より提出があり、回収率は93%で、前年度同様目標の90%以上を達成した。このうち、精神健康調査の結果から15名に対して対面で面接を実施し支援を行うことができた。</p>

項目名	学生向け予防啓発活動（グループ活動）
	<p>学生向け予防啓発活動として、グループワーク「ほっとの会」および「コミュニケーション講座」（開講期間中、月1回開催）を7回、茶話会「ほっとカフェ」（開催期間中、月2回開催）を7回、「総合相談室だより」（令和2年6月より月1回発行）の発行を10回、計24回実施し、目標値の「20回以上」を達成することができた。</p>

今年度の基準・目標
目標達成項目
目標未達項目

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
選択項目	学生定期健康診断受診率	70%以上	68.5	69.6	69.6	70.7	67.5	
	学生精神健康調査回収率	90%以上	95.0	97.0	95.0	94.0	93.0	
	学生定期健康診断事後指導率	90%以上	96.6	88.1	91.6	100.0	100.0	
	学生向け予防啓発活動	20回以上	48	36	23	23	24	
	教職員向け予防啓発活動	5回以上	14	4	10	5	5	
達成必須項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	100.0	100.0	100.0	100.0	
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	60.0	60.0	100.0	100.0	

4 グループ4（病院）

【最終評価結果】

評価項目の達成状況等を踏まえ、組織運営等状況報告書に基づき、評価者（学長、教育担当理事、研究担当理事、地域・産官学連携担当理事、総務・財務担当理事）が5段階で評価し、各評価者の合計点を当該部局の最終評価結果とする。

組織名	評点
病院	24

【評価基準（グループ3・4共通）

評価基準	評点
目標達成に向けた取組が、優れた成果・効果をあげている	5
目標達成に向けた取組が、着実に実施されている（標準）	4
目標達成に向けた取組が、ある程度実施されている	3
目標達成に向けた取組が、十分に実施されていない	2
目標達成に向けた取組が、実施されていない	1

組織運営等状況報告書

部局名（病院）

評価項目の令和2年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

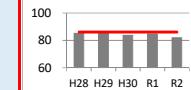
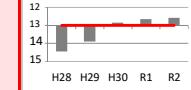
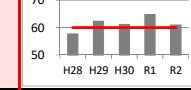
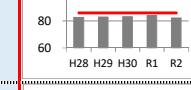
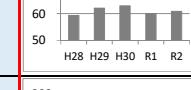
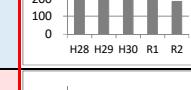
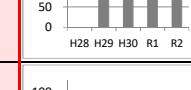
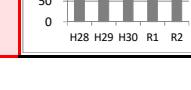
項目名	平均在院日数
	<p>平均在院日数とは、病院全体における1患者の平均的な入院期間（退院日を除く）であり、短いほど低侵襲な医療、効果的な医療を提供していることになる。また、平均在院日数を短縮すると診療単価が上昇する傾向となる。</p> <p>本院では目標を達成するため、病院運営会議で直近の実績値の周知、令和2年7月から実施した病院長ヒアリングで過去の実績や各診療科の状況を確認し情報共有をしたこと等の取組を行ったこと、また、年度計画に掲げる「ロボット手術室及びハイブリッド手術室の稼働率を上げるとともに、4K内視鏡システムに対応した手術室を導入・活用することにより、低侵襲医療の開発・導入を推進する。」が計画を上回る実績であった等から、令和2年度の平均在院日数は12.6日となり、目標値13日以下を達成した。</p>

項目名	DPCⅡ期以内退院率
	<p>DPCとは、診療毎に分類された1日あたりの包括支払い制度であり、Ⅱ期以内退院率を向上させることで診療単価が上昇することになる。本院では目標を達成するため、各症例に対応するDPCコードについて、正しいコード分岐や副傷病の付与などを推進する取組によって、より正確なDPCⅡ期日数が設定されたこと等から、令和2年度のDPCⅡ期以内の退院率は61%となり、目標値60%以上を達成した。</p>

今年度の基準・目標

目標達成項目

目標未達項目

区分	評価項目	基準目標	実績					経年推移
			H28	H29	H30	R1	R2	
選択項目	病床稼働率	86%	85.05	85.85	83.66	84.50	81.90	
	平均在院日数	13日以下	14.46	13.91	12.86	12.67	12.60	
	DPCⅡ期以内での退院率	60%	57.7	62.3	61.2	64.8	61.0	
	紹介率	86%	82.6	83.0	83.2	84.0	82.1	
	逆紹介率	68%	59.3	62.1	62.9	60.0	60.9	
	査読のある論文に掲載された英語論文件数	204件	251	275	227	204	183	
達成必須項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	85.9	87.6	98.6	100.0	
	情報倫理教育受講率 [教員]※	100%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

※ R1年度までは病院独自で実施の個人情報保護研修会の受講状況

【参考資料】

徳島大学組織評価実施要項

令和元年6月14日
学長裁定
令和2年10月7日改正
令和3年6月11日改正

1. 目的

組織評価は、徳島大学の教育研究組織の活動状況、成果、機能を点検・評価し、その評価結果を組織の機能向上、改善・見直し等に活用することを目的とする。

2. 対象組織

組織評価の対象組織及びグループ分けは、「組織評価対象部局一覧(別表)」のとおりとする。

3. 実施時期

組織評価は、毎年度実施する。

4. 対象期間

組織評価の対象期間は、原則、当該評価年度の前年度とする。

5. 評価対象

組織評価の評価対象は、グループに応じ、次のとおりとする。

(1) 評価項目の達成状況等

グループ1及び2については、評価項目の達成状況等を評価対象とする。

また、評価項目は次の区分によりグループ又は組織毎に指定・選択する。

ア. 共通項目 グループ毎に執行部が指定する評価項目の達成状況等

イ. 選択項目 各部局の強み・特色に応じて、当該部局が選択した評価項目の達成状況等

ウ. 達成必須項目 一定の水準を定め、達成されていない場合はポイントを減算する

(2) 評価項目の達成状況等を踏まえた特記事項等

グループ3及び4については、評価項目の達成状況を踏まえた特記事項等を評価対象とする。また、達成必須項目が達成されていない場合はポイントを減算して評価する。

6. 評価方法等

組織評価の評価方法は、書面評価により次のとおり実施する。

(1) 評価項目の達成状況等

評価項目に応じ、基準値比較、経年比較、目標値比較、部局比較により実績をポイント化し、各評価項目の実績ポイントの合計を当該部局の最終評価ポイントとする。

(2) 評価項目の達成状況等を踏まえた特記事項等

組織運営等状況報告書に基づき、評価者が5段階で評価し、各評価者のポイントの合計を当該部局の最終評価ポイントとする。

7. 評価結果の活用

組織評価の結果は、組織の機能向上、改善、見直し等に活用するとともに、経費配分の算定に反映させる。

8. 評価結果の公表

組織評価の評価結果は、大学HP等に掲載して公表する。

組織評価対象部局一覧

グループ	組織名
グループ1 (学部・研究科・教育部)	総合科学部、創成科学研究科（地域創成専攻・臨床心理学専攻）、総合科学教育部
	医学部、医科学教育部、栄養生命科学教育部、保健科学教育部
	歯学部、口腔科学教育部
	薬学部、薬科学教育部
	理工学部、創成科学研究科（理工学専攻）、先端技術科学教育部
グループ2 (研究部・研究所)	生物資源産業学部、創成科学研究科（生物資源学専攻）
	社会産業理工学研究部
	医歯薬学研究部
	先端酵素学研究所
グループ3 (共同教育研究施設等)	ポストLEDフォトニクス研究所
	教養教育院
	人と地域共創センター
	情報センター
	放射線総合センター
	高等教育研究センター
	環境防災研究センター
	研究支援・産官学連携センター
	AWAサポートセンター
	先端研究推進センター
	デザイン型AI教育研究センター
	産業院
	バイオイノベーション研究所
グループ4	埋蔵文化財調査室
	附属図書館
	キャンパスライフ健康支援センター
グループ4	病院

組織評価の概要図

評価対象

グループ1

グループ2

グループ3

グループ4

評価項目の達成状況等

評価項目				
	グループ1	ポイント	グループ2	ポイント
共通項目	アクティブラーニング実施率	10	論文数(Scopus)	8
	インターンシップ参加 学生数(常三島)	10	国際共著論文数(Scopus)	8
	国家試験合格率(蔵本)		SNIP(Scopus)	8
	外国語で実施している 授業科目割合	4	外部資金獲得金額	8
	日本人学生の留学生数	8	若手教員比率	8
選択項目	外国人留学生数	8		
	部局選択項目1	5	部局選択項目1	5
達成必須 項目	部局選択項目2	5	部局選択項目2	5
	学生定員充足率	減点	研究倫理教育受講率	減点
	研究倫理教育受講率	減点	情報倫理教育受講率	減点
最終評価ポイント			50	

評価項目の実績をポイント化

○評価項目に応じ、基準値比較、経年比較、目標値比較、部局比較を行い、その実績をポイント化。

○各評価項目の実績ポイントの合計を当該部局の最終評価ポイントとする。(50点満点)

組織運営等状況報告書

各部局毎に設定されている評価項目の達成状況等を踏まえた特記事項等を記載。

●目標達成に向けた特筆すべき取組

●優れた成果・効果が表れた取組や特徴的な取組 等

評価者	学長	理事 〔教育担当〕	理事 〔研究担当〕	理事 〔地域・産官学連携担当〕	理事 〔総務・財務担当〕	最終評価 ポイント
ポイント	5	5	5	5	5	25
達成必須 項目	研究倫理教育受講率					
	情報倫理教育受講率					

達成必須項目が達成されていない場合はポイントを減算して評価する

評価者による評価

○評価者は組織運営等状況報告書に基づき、5段階で評価。

○各評価者のポイントの合計を当該部局の最終評価ポイントとする。